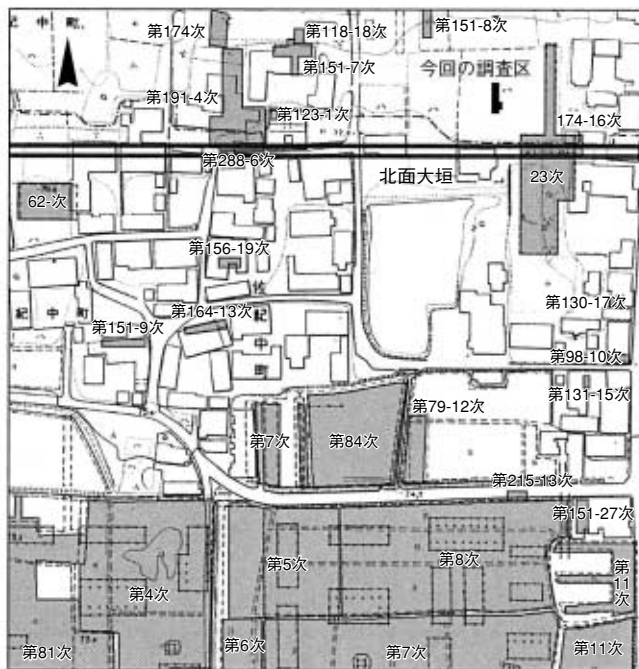
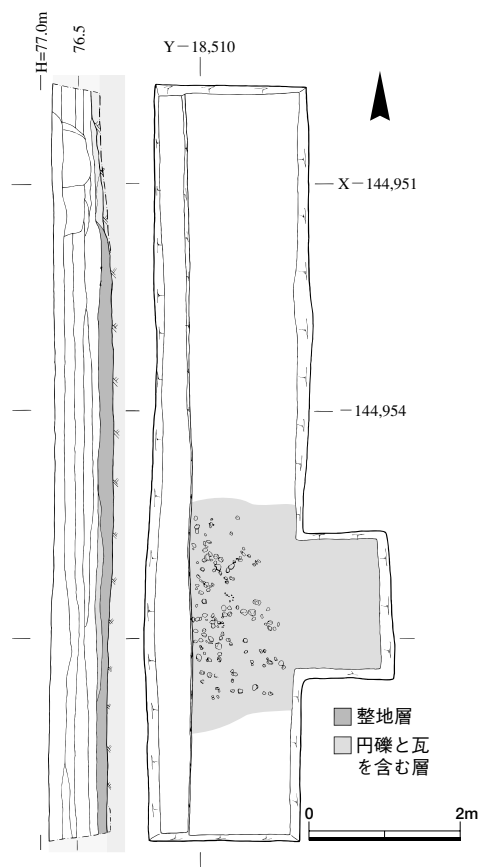


—第314-9次

『平城報告Ⅹ』ではSX2333とSA2300との間に遺構がないことから、この間の幅約13mの空閑地を北面の塙地とし、SX2333は排水施設として塙地を画すると想定している。その後、第34次・191-4次調査においてSX2333推定ラインに該当する部分の調査をおこなっているが、いずれも類似の施設は検出されていない。この点について、第34次調査区内では、奈良時代の遺構が検出されていないことから、遺構が全て削平された可能性もある。他方、第191-4次調査区は北面中門想定地にあたり、そもそもSX2333が存在しなかったことも考慮しなければならないだろう。すなわち、今回の調査はSX2333が塙地を画する施設として北面大垣の北を東西に横切ることが追認されるのかという点で注目された。



114 奈文研紀要 2001



調査の結果、調査区南寄りで南北約2mにわたり、整地層を削り込むかたちで、炭を含み、拳大の円礫と瓦を含む層が検出された（図120のアミ部分）。第23次調査において検出されたSX2333に比べると、瓦、礫が密でないことと、実際の検出位置が想定心よりも若干北に位置することからみて、これがSX2333に連なる遺構であるとは明言しがたい。

なお、この調査では遺物包含層より瓦と瓦器、整地層より瓦と土師器が出土しているが、いずれも摩滅が著しく、小片かつ少量である。(神野 恵)

(神野 恵)